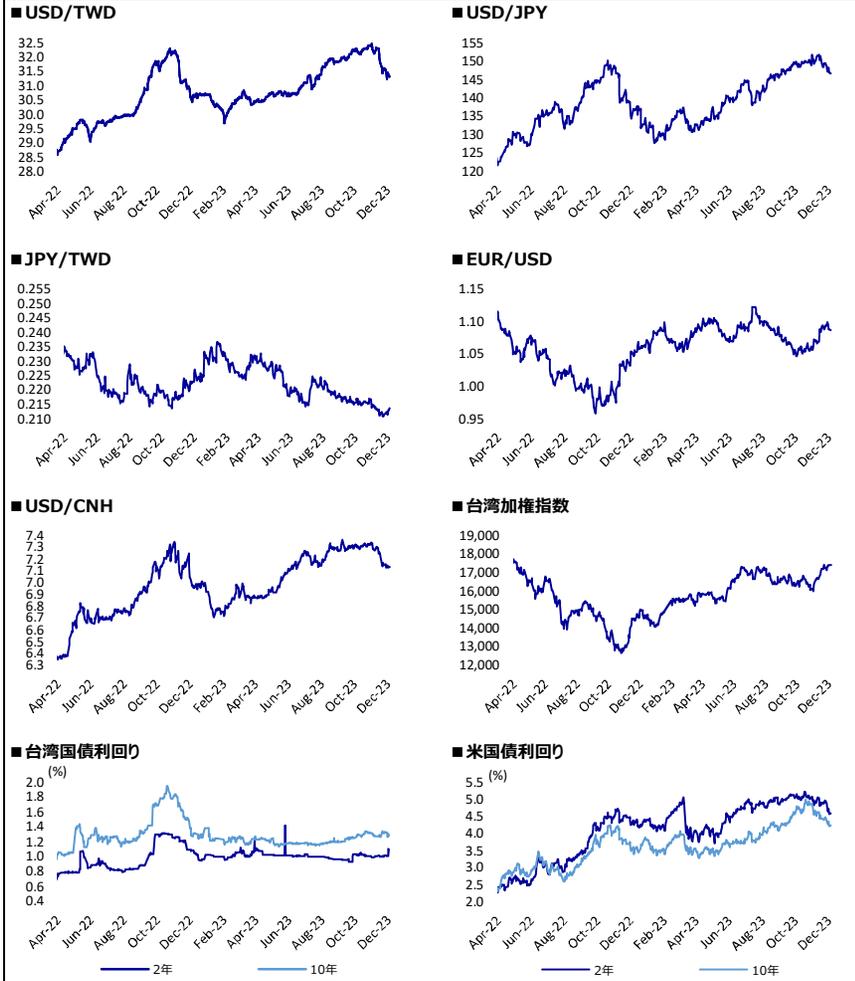


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/27は、31.650でオープン後、台湾株価の下落を背景に外国人投資家による台湾株売りが見られ、台湾ドル売り優勢な展開となり、一時31.655まで上昇。引けにかけては上値重く推移し、31.60近辺まで下落した。11/28は、前日の米10月新築住宅販売件数が市場予想を下回っていたことを受けて米金利が低下する中、ドル売りが優勢な展開となり31.40台まで下落した。11/29は前日海外時間にFRB高官よりハト派な発言が聞かれていたことから、米金利が低下しドル売りが優勢な展開に。また、外国人投資家による台湾株買いも見られ、31.25近辺まで下落した。11/30は寄り付きで一時31.225まで下落したが、その後は材料に乏しい中、31.25近辺で揉み合いの推移。12/1は前日の海外時間に米11月シカゴPMIが市場予想を上回る結果となったことを受けて、来年以降の米国利下げ期待が剥落すると、ドル買いが優勢な展開となり、31.40台後半まで上昇した。最終的には前週比0.5%ドル安台湾ドル高の31.475で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は372.8億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は下落。週初11/27は149.47でオープン後、日10月サービスPPIが前回対比強い結果となったことを受けて、円買いが優勢な展開となり、148円台後半まで下落。海外時間に入ると、米10月新築住宅販売件数が市場予想を下回ると、ドル売りが加速し、148円台前半まで下落した。11/28はFRB高官のウォーラーや米国地区連銀総裁のウィリアムズよりハト派な発言が聞かれ、米金利が急速に低下する中、ドル売りが優勢な展開となり147円台前半まで下落。11/29は米金利の低下が続く中、ドル売りが継続し147円台前半まで下落。11/30は米10月PCEが市場予想通りの結果となった他、米11月シカゴPMIが市場予想を大幅に上回る結果となったことを受けて、来年以降の米国利下げ期待が剥落し、ドル買いが優勢となり148円台前半まで上昇した。12/1は米11月ISM景況感指数が市場予想を下回る結果となった他、FRB議長より利上げが不十分になるリスクについて「よりバランスが取れてきた」と聞かれたことを受け米金利低下、ドル売りが加速する展開に。一時146.66まで下落した。その後も上値重く推移し、最終的には前週比1.8%ドル安円高の146.81で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：31.100-31.400  
今週は下落を見込む。米金利が低下する中、ドルは売られやすいであろう。また、12/6に発表を控える台湾11月CPIが強い内容となった場合、台湾ドル金利上昇、台湾ドル高の加速が警戒されるであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：145.00-147.00  
今週は上値の重い展開を見込む。12/5に日11月CPIの発表を控えており、強い結果となった場合は12月日銀金融政策決定会合に向け円買い圧力が高まりやすい展開となるであろう。

今週の予定

12/4 (MON)	
12/5 (TUE)	日11月CPI、米11月製造業新規受注
12/6 (WED)	台湾11月CPI、台湾11月PPI、米10月貿易収支
12/7 (THU)	
12/8 (FRI)	米11月雇用統計、米12月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。